

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-109743

(P2017-109743A)

(43) 公開日 平成29年6月22日(2017.6.22)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/42 (2006.01)	B 6 5 D 5/42 B	2 H 1 9 9
G 0 2 B 27/22 (2006.01)	G 0 2 B 27/22	3 E 0 6 0
B 6 5 D 5/10 (2006.01)	B 6 5 D 5/10 K	
B 6 5 D 5/487 (2006.01)	B 6 5 D 5/487	

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2015-243010 (P2015-243010)	(71) 出願人	000003193
(22) 出願日	平成27年12月14日 (2015.12.14)		凸版印刷株式会社
			東京都台東区台東1丁目5番1号
		(72) 発明者	井上 健弘
			東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
		(72) 発明者	鎌田 真輝
			東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内
		Fターム(参考)	2H199 BA05 BB02
			3E060 AA03 AB05 BA08 BB03 BB05
			CA01 CA13 CA24 CA42 CC03
			CC17 CC19 CC43 CE02 CE15
			CE19 CE30 DA01 DA03 DA30
			EA13

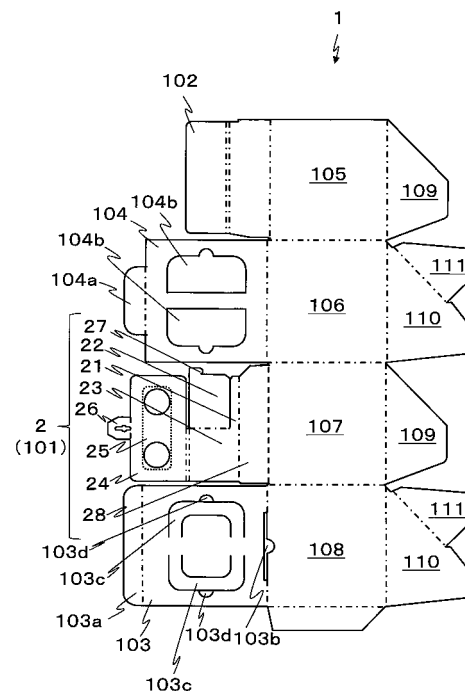
(54) 【発明の名称】 包装箱

(57) 【要約】

【課題】特別な梱包用の資材を使わずに3Dビューワを取り付け可能で、かつ、全体の外形サイズが3Dビューワを取り付ける前後で変わらない包装箱を提供することを課題とする。

【解決手段】第1及び第2の天フラップ及び蓋により開口部が覆われている包装箱であって、前記第1の天フラップには3Dビューワが形成されていて、前記3Dビューワは端末収納部及び仕切り板を有する背面板と双眼レンズ部と、を含むことを特徴とする包装箱。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

第 1 及び第 2 の天フラップ及び蓋により開口部が覆われている包装箱であって、
前記第 1 の天フラップには 3 D ビューワが形成されていて、
前記 3 D ビューワは端末収納部及び仕切り板を有する背面板と双眼レンズ部と、を含むことを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の包装箱であって、
前記第 1 及び第 2 の天フラップを閉じた状態では前記第 2 の天フラップが前記双眼レンズ部と重なることを特徴とする包装箱。

10

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の包装箱であって、
前記 3 D ビューワの前記双眼レンズ部は前記背面板に折罫を介して接続されていて、
前記双眼レンズ部は、当該折罫により前記背面板と向かい合うように折り畳まれることを特徴とする包装箱。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の包装箱であって、
前記第 2 の天フラップは、前記背面板との間の折罫で折り畳まれた状態の前記双眼レンズ部と重なることを特徴とする包装箱。

【請求項 5】

第 1 及び第 2 の天フラップ及び蓋により開口部が覆われている包装箱であって、
前記第 1 の天フラップには 3 D ビューワが接続されていて、
前記 3 D ビューワは端末収納部及び仕切り板を有する背面板と双眼レンズ部と、を含むことを特徴とする包装箱。

20

【請求項 6】

請求項 5 に記載の包装箱であって、
前記 3 D ビューワの前記双眼レンズ部は前記背面板に折罫を介して接続されていて、
前記双眼レンズ部は、当該折罫により前記背面板と向かい合うように折り畳まれることを特徴とする包装箱。

【請求項 7】

請求項 5 または 6 に記載の包装箱であって、
前記双眼レンズ部に配置されるレンズは、片側が平面で他方が凸面の形状を有する平凸レンズであることを特徴とする包装箱。

30

【請求項 8】

請求項 6 に記載の包装箱であって、
前記双眼レンズ部は、平凸レンズの凸面側が前記背面板側になるように折り畳まれることを特徴とする包装箱。

【請求項 9】

請求項 5 ～ 8 のいずれか 1 に記載の包装箱であって、
前記 3 D ビューワが包装箱の中仕切りとなることを特徴とする包装箱。

40

【請求項 10】

請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 に記載の包装箱であって、
前記 3 D ビューワが当該包装箱から分離できることを特徴とする包装箱。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、取り外し可能な 3 D ビューワ付きの包装箱に関する。

【背景技術】**【0002】**

人間が物を立体として認識できる理由は、その物を、左右の 2 つの目によって互いに異

50

なる角度から見ているからである。したがって、人間の両眼の視差と同じ角度差になるように、一つの物を互いに異なる角度から見た少なくとも2つの画像を、対象者の左右の目にそれぞれ振り分けて提示すれば、左右の目に映る画像が脳内で同時に知覚されて合成されるため、対象者は立体的な感覚を得ることができる。そして、表示装置に表示されたこのような視差画像を見るためのビューワが提案されている。

【0003】

例えば、双眼レンズと、表示装置を支持する支持手段と、双眼レンズにおける2つのレンズの間から支持手段に向かって延びる仕切り板と、双眼レンズと支持手段と仕切り板とを繋ぐアームとを備えるビューワが提案されている。使用者は、仕切り板と支持手段との間に、画像の表示される表示面を双眼レンズ側に向けて表示装置を挟み、双眼レンズを通して、表示装置に表示される視差画像を見る（特許文献1参照）。

10

【0004】

また、表示装置を載置する台座部を有するビューワも提案されている。こうした構成によれば、机などの台上に台座部を置き、台座部に表示装置を載置することによって、使用者は、ビューワや表示装置を手で持つことなく、観察姿勢を安定させて視差画像を見ることができる（特許文献2参照）。

【0005】

ところで、近年、包装箱の外側にクーポン券やおまけを取り付ける所謂オンパック・プレミアムによる販売促進が多く行われている。そして、特許文献1、2に示されるようなビューワをオンパック・プレミアムとして包装箱に取り付けたいという要望も出てきている。

20

【0006】

しかし、従来のビューワは包装箱に取り付けることを想定していないため、プラスチックや金属を使ったものがほとんどであり、小さく折り畳むことができないものも多かった。

また、ビューワを資材で梱包する場合には、レンズ部分に傷が付きやすいため、梱包を何重にもして厳重にする必要があった。そのため、例えば飲料缶4～6本程度を包装する包装箱に取り付けられる程度に、ビューワを小さく梱包することは非常に困難であった。

【0007】

また、オンパック・プレミアムを包装箱の外側に取り付けると全体の外形サイズが大きくなり、オンパック・プレミアム付きの商品は商品棚に並べられる数が少なくなってしまう。そのため、オンパック・プレミアムが付いていない商品と同じ数量運ぶ時よりも輸送コストが高くなってしまっただけでなく、店舗販売する際にも、店舗の中にオンパック・プレミアム商品専用の大きな載置スペースを確保する、若しくは商品の補充を頻繁に行う必要があり、販売店舗にとっても不便な商品であった。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0008】

【特許文献1】特開2013-190450号公報

【特許文献2】登録実用新案第3185458号公報

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

本発明は上記のような事情に鑑みてなされたもので、特別な梱包用の資材を使わずに3Dビューワを取り付け可能で、かつ、全体の外形サイズが3Dビューワを取り付ける前後で変わらない包装箱を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明は係る課題に鑑みなされたものであり、本発明の請求項1の発明は、第1及び第2の天フラップ及び蓋により開口部が覆われている包装箱であって、前記第1の天フラッ

50

ブには３Ｄビューワが形成されていて、前記３Ｄビューワは端末収納部及び仕切り板を有する背面板と双眼レンズ部と、を含むことを特徴とする包装箱である。

【００１１】

また、本発明の請求項２の発明は、請求項１に記載の包装箱であって、前記第１及び第２の天フラップを閉じた状態では前記第２の天フラップが前記双眼レンズ部と重なることを特徴とする包装箱である。

【００１２】

また、本発明の請求項３の発明は、請求項１または２に記載の包装箱であって、前記３Ｄビューワの前記双眼レンズ部は前記背面板に折罫を介して接続されていて、前記双眼レンズ部は、当該折罫により前記背面板と向かい合うように折り畳まれることを特徴とする包装箱である。

10

【００１３】

また、本発明の請求項４の発明は、請求項３に記載の包装箱であって、前記第２の天フラップは、前記背面板との間の折罫で折り畳まれた状態の前記双眼レンズ部と重なることを特徴とする包装箱である。

【００１４】

本発明の請求項５の発明は、第１及び第２の天フラップ及び蓋により開口部が覆われている包装箱であって、前記第１の天フラップには３Ｄビューワが接続されていて、前記３Ｄビューワは端末収納部及び仕切り板を有する背面板と双眼レンズ部と、を含むことを特徴とする包装箱である。

20

【００１５】

また、本発明の請求項６の発明は、請求項５に記載の包装箱であって、前記３Ｄビューワの前記双眼レンズ部は前記背面板に折罫を介して接続されていて、前記双眼レンズ部は、当該折罫により前記背面板と向かい合うように折り畳まれることを特徴とする包装箱である。

【００１６】

また、本発明の請求項７の発明は、請求項５または６に記載の包装箱であって、前記双眼レンズ部に配置されるレンズは、片側が平面で他方が凸面の形状を有する平凸レンズであることを特徴とする包装箱である。

【００１７】

30

また、本発明の請求項８の発明は、請求項６に記載の包装箱であって、前記双眼レンズ部は、平凸レンズの凸面側が前記背面板側になるように折り畳まれることを特徴とする包装箱である。

【００１８】

また、本発明の請求項９の発明は、請求項５～８のいずれか１に記載の包装箱であって、前記３Ｄビューワが包装箱の中仕切りとなることを特徴とする包装箱である。

【００１９】

また、本発明の請求項１０の発明は、請求項１～９のいずれか１に記載の包装箱であって、前記３Ｄビューワが当該包装箱から分離できることを特徴とする包装箱である。

【発明の効果】

40

【００２０】

本発明の請求項１の発明によれば、プレミアム品である３Ｄビューワが包装箱の天フラップに形成されているため、特別な梱包資材を必要としない。また、３Ｄビューワが付いていても包装箱の外形サイズが大きくなることも無い。このため、輸送コストを低く抑えることが可能であるだけでなく、小さなスペースにも商品をぎっしり載置できるので販売店舗も不便を感じることなく商品を販売することが可能となる。

【００２１】

また、本発明の請求項２の発明によれば、包装箱の１対の天フラップを閉じた時に、前記第１の天フラップに形成された前記３Ｄビューワの前記双眼レンズ部と前記第２の天フ

50

ラップが重なる構造となるため、前記双眼レンズ部は包装箱内に収納された商品に直接触れることが無い。これにより、傷つき易い前記双眼レンズ部の傷つきを防止することが可能となる。

【 0 0 2 2 】

また、本発明の請求項 3 の発明によれば、前記双眼レンズ部を前記背面板との間の折罫により折り畳むことにより、前記双眼レンズ部が前記背面板により保護される構造となる。

この構造により、傷つき易い前記双眼レンズ部の傷つきを容易に防止することが可能となる。

【 0 0 2 3 】

また、本発明の請求項 4 の発明によれば、前記双眼レンズ部が前記背面板と向かい合うように折り畳まれた上に、前記双眼レンズ部と前記第 2 の天フラップが重なる構造となっていることにより、前記双眼レンズ部の両面を前記背面板と前記第 2 の天フラップで保護することが可能となるため、より確実に前記双眼レンズ部の傷つきを防止することが可能となる。

【 0 0 2 4 】

本発明の請求項 5 の発明によれば、プレミアム品である 3 D ビューワが包装箱の天フラップに接続されているため、特別な梱包資材を必要としない。また、3 D ビューワが付いていても包装箱の外形サイズが大きくなることも無い。

このため、輸送コストを低く抑えることが可能であるだけでなく、小さなスペースにも商品をぎっしり載置できるので販売店舗も不便を感じることなく商品を販売することが可能となる。

【 0 0 2 5 】

また、本発明の請求項 6 の発明によれば、前記双眼レンズ部を前記背面板との間の折罫により折り畳むことにより、前記双眼レンズ部が前記背面板により保護される構造となる。

この構造により、傷つき易い前記双眼レンズ部の傷つきを容易に防止することが可能となる。

【 0 0 2 6 】

また、本発明の請求項 7 の発明によれば、前記双眼レンズ部に配置されるレンズが平凸レンズであるため、レンズと物体の間の距離及びレンズと像の間の距離が異なる場合にも球面収差を小さくすることが可能であり、両面が凸面である凸レンズを用いる場合に比べて視認性を高めることが可能となる。

【 0 0 2 7 】

また、本発明の請求項 8 の発明によれば、前記平凸レンズの凸面側が前記背面板と向かい合うようにして前記双眼レンズ部を折り畳むことが可能となるため、最も傷つき易い前記双眼レンズ部の凸面部の傷つきを容易に防止することが可能となる。

【 0 0 2 8 】

また、本発明の請求項 9 の発明によれば、前記 3 D ビューワが包装箱の中仕切りとしての役割も果たすため、包装箱に収納された商品の輸送時の横ずれを防止することも可能となる。

【 0 0 2 9 】

また、本発明の請求項 1 0 の発明によれば、前記 3 D ビューワが包装箱から分離できるため、前記 3 D ビューワの使用者は、必要な時に前記 3 D ビューワを包装箱から切り離して使用することが可能となる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 0 】

【 図 1 】 第 1 の実施形態の包装箱のブランクを模式的に示す平面図である。

【 図 2 】 第 1 の実施形態の包装箱の使用形態を模式的に示す説明図である。（ a ）は第 1 の天フラップを上を持ち上げた状態、（ b ）は双眼レンズ部を折り畳んで第 2 の天フラッ

10

20

30

40

50

ブと重ねた状態を示す。

【図 3】第 1 の実施形態の 3 D ビューワを包装箱から切り離して使用する使用形態を模式的に示す説明図である。(a) は斜め上方から見た状態、(b) は側面から見た状態を示す。

【図 4】第 2 の実施形態の包装箱のブランクを模式的に示す平面図である。

【図 5】第 2 の実施形態の包装箱の使用形態を模式的に示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 3 1 】

< 第 1 の実施形態 >

以下、本発明を実施するための第 1 の実施形態につき図 1 ~ 3 を参照して説明する。

10

【 0 0 3 2 】

第 1 の実施形態の包装箱 1 は、図 1 に示したブランクを一点破線で示した罫線を折って、必要部分をグルーなどで貼着して製函する。罫線は、押罫、ミシン罫、リード罫など、いずれの罫線でも構わない。

【 0 0 3 3 】

本実施形態の包装箱 1 は、右側面側板 1 0 5、正面側板 1 0 6、左側面側板 1 0 7、背面側板 1 0 8 からなる側板を有し、これらを偏平に折り畳んだ状態から筒状に起こすことによって、底部分が形成されるオートボトムタイプの箱である。

また、背面側板 1 0 8 の左側には、側部貼着部が設けられていて、右側面側板 1 0 5 の右側に当該側部貼着部が貼着され、背面側板 1 0 8 の左側と右側面側板 1 0 5 の右側が接続

20

【 0 0 3 4 】

右側面側板 1 0 5 と左側面側板 1 0 7 の下端には、側部連設板 1 0 9、1 0 9 が連設され、正面側板 1 0 6 と背面側板 1 0 8 の下端には、前後連設板 1 1 0、1 1 0 が設けられていて、前後連設板 1 1 0、1 1 0 には折罫を挟んで、それぞれ、底部貼着板 1 1 1、1 1 1 が設けられている。

底部分を形成するには、背面側板 1 0 8 の左側に設けられた側部貼着部を右側面側板 1 0 5 の右側に貼着させ、側板を筒状にする。その後、前後連設板 1 1 0、1 1 0 と底部貼着板 1 1 1、1 1 1 の間を谷折りし、側部連設板 1 0 9、1 0 9 と、前後連設板 1 1 0、1 1 0 を筒状の内方に折込み、底部貼着板 1 1 1、1 1 1 の内面を隣り合った側部連設板 1 0 9、1 0 9 の外面にそれぞれ、接着剤などで接着させる。これにより、オートボトムタイプの箱の底部分が

30

できる。そして、側板を折畳んだ状態から、筒状に立ち上げると、底部貼着板 1 1 1、1 1 1 と側部連設板 1 0 9、1 0 9 が接着しているので、側部連設板 1 0 9、1 0 9 と前後連設板 1 1 0、1 1 0 などが略平面状になり、前後連設板 1 1 0、1 1 0 と底部貼着板 1 1 1、1 1 1 の境界が突き合わされて底部分を固定する。このように、胴部分の側板を折畳んだ状態から筒状に立ち上げるとそれに伴い底部分が形成される。このような箱を、オートボトムタイプと呼ぶ。

なお、本実施形態ではオートボトムタイプを採用しているが、これに限らず、底部分が閉じられて箱としての体裁が整っていれば底部分の構造はどのようなものでも良い。

40

【 0 0 3 5 】

また、右側面側板 1 0 5 の上端には第 2 の天フラップ 1 0 2、左側面側板 1 0 7 の上端には第 1 の天フラップ 1 0 1 がそれぞれ連設されている。正面側板 1 0 6 の上端には、外蓋 1 0 4 と外蓋差込片 1 0 4 a が順次連設されている。また、背面側板 1 0 8 の上端には、内蓋 1 0 3 と内蓋差込片 1 0 3 a が順次連設されている。

また、内蓋 1 0 3 と背面側板 1 0 8 の境界およびその近傍に、開孔部および切込み線からなる差込口 1 0 3 b が、外蓋差込片 1 0 4 a を差し込み固定するために設けられている。

【 0 0 3 6 】

第 1 の天フラップ 1 0 1 は、全体が 3 D ビューワ 2 になっていて、左側面側板 1 0 7 側から、台座部 2 8、背面板 2 3、双眼レンズ部 2 4、係止部 2 6 の順に接続されている。

50

背面板 2 3 には仕切り板 2 2 及び端末収納部 2 1 が形成されている。

また、第 2 の天フラップ 1 0 2 には、その長さ方向の略中央に、右側面側板 1 0 5 との境界と平行な折罫が設けられている。

【 0 0 3 7 】

本実施形態の包装箱 1 の蓋を閉める際、第 1 の天フラップ 1 0 1 は、図 2 (a) に示すように第 2 の天フラップ 1 0 2 の上に重ねるようにする。そして、図 2 (b) に示すように、背面板 2 3 と双眼レンズ部 2 4 の間の折罫で折り畳んで第 2 の天フラップ 1 0 2 上に重ねてから内蓋 1 0 3 及び外蓋 1 0 4 を閉める。

このような構成にすることにより、双眼レンズ部 2 4 は、第 2 の天フラップ 1 0 2 及び背面板 2 3 に挟まれた状態となるため、輸送中にも包装箱 1 に収納された商品等で双眼レンズ部 2 4 が傷つくことはない。

10

【 0 0 3 8 】

また、このとき、第 1 の天フラップ 1 0 1 の重みにより第 2 の天フラップ 1 0 2 に設けられた折罫で第 2 の天フラップ 1 0 2 の先端が下方に折れ曲がる。この構成が双眼レンズ部 2 4 付近の緩衝の役割を果たすので、双眼レンズ部 2 4 の傷つきをより低減することが可能となる。

【 0 0 3 9 】

このようにして、第 2 の天フラップ 1 0 2 及び第 1 の天フラップ 1 0 1 を内方に倒した後、内蓋 1 0 3 をその上に倒して内蓋差込片 1 0 3 a を正面側板 1 0 6 の内面に沿うように差込み、次に外蓋 1 0 4 を内蓋 1 0 3 の上に重なるように倒して、外蓋差込片 1 0 4 a

20

を差込口 1 0 3 b に差し込むことにより、包装箱 1 の組み立てが完了する。

【 0 0 4 0 】

なお、本実施形態では、内蓋 1 0 3 に吊り手 1 0 3 c 及び指差し込み用の指孔 1 0 3 d を設け、吊り手 1 0 3 c 及び指孔 1 0 3 d に重なる位置の外蓋 1 0 4 に吊り手 1 0 3 c を立ち上げるための吊り手孔 1 0 4 b を設けて、吊り手 1 0 3 c を手で持って持ち運ぶことのできるキャリーバック形状の包装箱 1 としているが、蓋部分の構造はこれに限らない。3 D ビューワ 2 を形成する第 1 の天フラップ 1 0 1 及び第 2 の天フラップ 1 0 2 とその上を覆う内蓋 1 0 3 若しくは外蓋 1 0 4 を有していれば良い。

【 0 0 4 1 】

次に、3 D ビューワ 2 について説明する。

30

本実施形態の 3 D ビューワ 2 は第 1 の天フラップ 1 0 1 を構成していて、左側面側板 1 0 7 との境界で切り取って、包装箱 1 と分離して 3 D ビューワ 2 のみで使用するができる。

【 0 0 4 2 】

3 D ビューワ 2 は、双眼レンズ部 2 4 を備えている。双眼レンズ部 2 4 には 2 つの貫通孔が左右方向に並ぶように形成され、この貫通孔が形成された部分に双眼レンズが配置されることによって構成されている。

双眼レンズ部 2 4 に貼着されるレンズシート 2 5 は、例えばプラスチック製であり、1 枚の平坦なプレートに左レンズと右レンズとの 2 つのレンズが形成された構成を有する。

なお、双眼レンズ部 2 4 が左レンズと右レンズとを保持し、双眼レンズ部 2 4 の 2 つの貫通孔の各々にレンズが配置される構成であれば、例えば、左レンズと右レンズとは別の部材であってもよいし、レンズが双眼レンズ部 2 4 の貫通孔に嵌合されることによって双眼レンズ部 2 4 が形成されてもよい。

40

【 0 0 4 3 】

3 D ビューワ 2 を使用する際にはまず、背面板 2 3 の一部に設けられた仕切り板 2 2 を背面板 2 3 に対して垂直になるように折罫で山折りする。その後、双眼レンズ部 2 4 を、レンズシート 2 5 の左右の 2 つのレンズの間が仕切り板 2 2 の上に乗るようにして折罫で折り曲げ、双眼レンズ部 2 4 に接続された係止部 2 6 に仕切り板 2 2 の先端に設けられた係止片 2 7 を挿入して係止固定する。

そして、背面板 2 3 の一部であって仕切り板 2 2 の下には端末収納部 2 1 が形成されてい

50

て、端末収納部 2 1 と台座部 2 8 の間の折罫を折り曲げて台座部 2 8 が双眼レンズ部 2 4 及び仕切り板 2 2 の下に配置することにより、図 3 (a) 及び図 3 (b) に示すような 3 D ビューワ 2 の組み立てが完了する。

【 0 0 4 4 】

3 D ビューワ 2 の使用者が、スマートフォンや P D A (P e r s o n a l D i g i t a l A s s i s t a n t 若しくは P e r s o n a l D a t a A s s i s t a n c e) 等の携帯情報端末のディスプレイに表示された画像を、3 D ビューワ 2 を使って見る際には、3 D ビューワ 2 を包装箱 1 から分離して組み立てた後、台座部 2 8 上の端末収納部 2 1 に、仕切り板 2 2 が左目用画像と右目用画像の境界に重なるように配置する。

そして、3 D ビューワ 2 を顔の前に構え、右目で右レンズを通して右空間を覗き、左目で左レンズを通して左空間を覗く。携帯情報端末のディスプレイには、両眼視差に応じた差異を有する右目用の視差画像と左目用の視差画像とが並べて表示され、右目用の視差画像は右空間に対向し、左目用の視差画像は左空間に対向する。使用者は、右目で右レンズを通して右目用の視差画像を見るとともに、左目で左レンズを通して左目用の視差画像を見る。これにより、使用者には、視差画像に含まれる対象が立体的に見える。

【 0 0 4 5 】

本実施形態のような包装箱 1 とすることにより、特別な梱包用の資材を使わずに 3 D ビューワ 2 を包装箱 1 に取り付け可能で、かつ、包装箱 1 全体の外形サイズが 3 D ビューワ 2 を取り付ける前後で変わらない包装箱 1 を提供することが可能となる。

【 0 0 4 6 】

包装箱 1 は例えば飲料缶 4 本を収納した状態で 3 D ビューワ 2 を取り付けて販売されることにより、3 D ビューワ 2 付きであることをアピールして販売促進効果を得られるだけでなく、通常の飲料缶 4 本入りの包装箱と同じ大きさであるため、販売店舗が輸送や陳列に不便を感じることなく販売することが可能となる。

【 0 0 4 7 】

< 第 2 の実施形態 >

以下、本発明を実施するための第 2 の実施形態につき図 4 、 5 を参照して説明する。

【 0 0 4 8 】

第 2 の実施形態の包装箱 1 0 は、3 D ビューワ 2 が第 1 の天フラップ全体を構成するのではなく、第 1 の天フラップ 1 2 1 に 3 D ビューワ 2 が接続されている点で第 1 の実施形態の包装箱 1 と異なる。

【 0 0 4 9 】

本実施形態では、図 4 に示すように、左側面側板 1 0 7 の上端に接続された第 1 の天フラップ 1 2 1 に 3 D ビューワ 2 が接続されている。3 D ビューワ 2 の構成は第 1 の実施形態と同様に、第 1 の天フラップ 1 2 1 側から、台座部 2 8 、背面板 2 3 、双眼レンズ部 2 4 、係止部 2 6 の順に接続されている。そして、背面板 2 3 には仕切り板 2 2 及び端末収納部 2 1 が形成されている。

【 0 0 5 0 】

また、第 2 の天フラップ 1 2 2 には第 1 の実施形態における第 2 の天フラップ 1 0 2 のような折罫は無く、第 1 の天フラップ 1 2 1 と 3 D ビューワ 2 の境界と第 2 の天フラップ 1 2 2 が突合せとなるようになっている。

【 0 0 5 1 】

本実施形態において、包装箱 1 0 の蓋を閉める際には、図 5 に示したように、第 1 の天フラップ 1 2 1 と 3 D ビューワ 2 の境界線で折り曲げて 3 D ビューワ 2 を下方に垂れ下げることにより、3 D ビューワ 2 が包装箱 1 0 の中仕切りとなる。

【 0 0 5 2 】

3 D ビューワ 2 の双眼レンズ部 2 4 に配置されるレンズシート 2 5 のレンズは、片側が平面で他方が凸面の形状を有する平凸レンズであることが好ましい。これは、レンズと物体の間の距離及びレンズと像の間の距離が異なる場合にも球面収差を小さくすることが可能であり、両面が凸面である凸レンズを用いる場合に比べて視認性を高めることが可能と

10

20

30

40

50

なるからである。

また、レンズの向きは、背面板 2 3 と双眼レンズ部 2 4 の間の折罫で折り畳んだときに、レンズの凸面側が背面板 2 3 と向かい合うようにする。このような構成にすることにより、レンズの平面側は双眼レンズ部 2 4 に設けられた貫通孔の奥に配置されて、貫通孔より表面に飛び出さないで、レンズ表面が傷つきにくくなる。

【 0 0 5 3 】

また、3 D ビューワ 2 を中仕切りとする際には、背面板 2 3 と双眼レンズ部 2 4 の間の折罫で折り畳んだ状態で 3 D ビューワ 2 を垂れ下げる。

このような構成にすることにより、双眼レンズ部 2 4 のレンズの凸面側は、背面板 2 3 に守られた状態となるため、輸送中にも包装箱 1 0 に収納された商品等で双眼レンズ部 2 4 の凸面が傷つく虞を無くすることが可能となる。

【 0 0 5 4 】

本実施形態のような包装箱 1 0 とすることにより、特別な梱包用の資材を使わずに 3 D ビューワ 2 を包装箱 1 0 に取り付け可能で、かつ、包装箱 1 0 全体の外形サイズが 3 D ビューワ 2 を取り付ける前後でほとんど変わらない包装箱 1 0 を提供することが可能となる。

【 0 0 5 5 】

包装箱 1 0 は例えば飲料缶 4 本を収納した状態で 3 D ビューワ 2 を取り付けて販売されることにより、3 D ビューワ 2 付きであることをアピールして販売促進効果を得られるだけでなく、通常の飲料缶 4 本入りの包装箱と同じ大きさであるため、販売店舗が輸送や陳列に不便を感じることなく販売することが可能となる。

【 0 0 5 6 】

商品を購入し、包装箱 1 0 に取り付けられた 3 D ビューワ 2 を入手した購入者が 3 D ビューワ 2 を使用する際にはまず、第 1 の天フラップ 1 2 1 から 3 D ビューワ 2 を切り取って包装箱 1 0 から 3 D ビューワ 2 を分離する。そして、第 1 の実施形態と同様に 3 D ビューワを組み立てて携帯情報端末を収納して画像表示することにより、立体画像を見ることが出来るようになる。

【 符号の説明 】

【 0 0 5 7 】

- 1、1 0・・・包装箱
- 2・・・3 D ビューワ
- 2 1・・・端末収納部
- 2 2・・・仕切り板
- 2 3・・・背面板
- 2 4・・・双眼レンズ部
- 2 5・・・レンズシート
- 2 6・・・係止部
- 2 7・・・係止片
- 2 8・・・台座部
- 1 0 1、1 2 1・・・第 1 の天フラップ
- 1 0 2、1 2 2・・・第 2 の天フラップ
- 1 0 3・・・内蓋
- 1 0 4・・・外蓋
- 1 0 5・・・右側面側板
- 1 0 6・・・正面側板
- 1 0 7・・・左側面側板
- 1 0 8・・・背面側板
- 1 0 9・・・側部連接板
- 1 1 0・・・前後連接板
- 1 1 1・・・底部貼着板

10

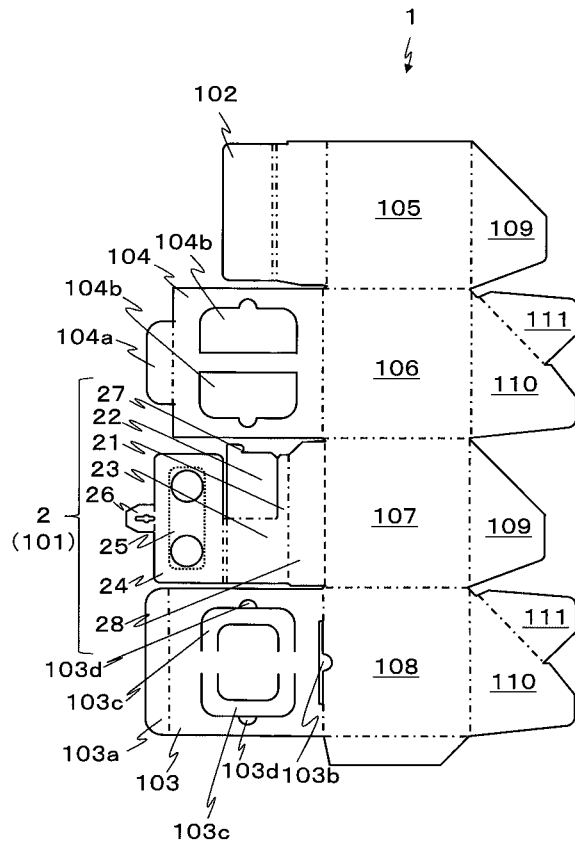
20

30

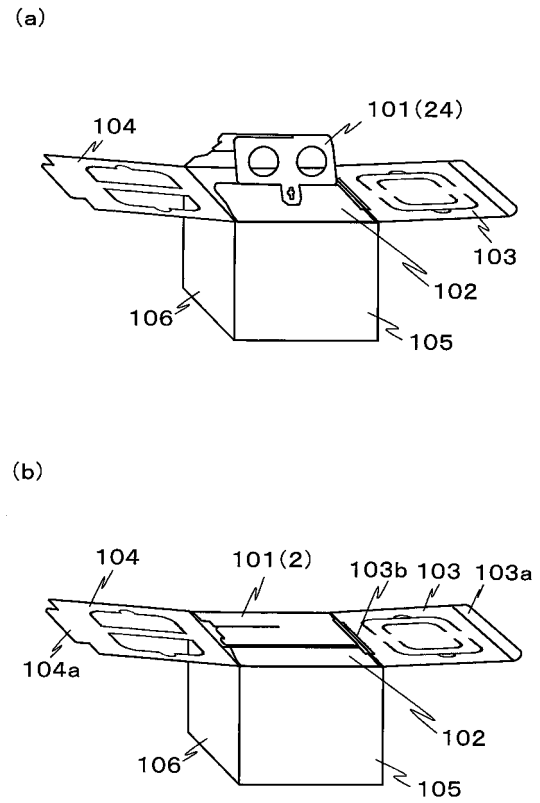
40

50

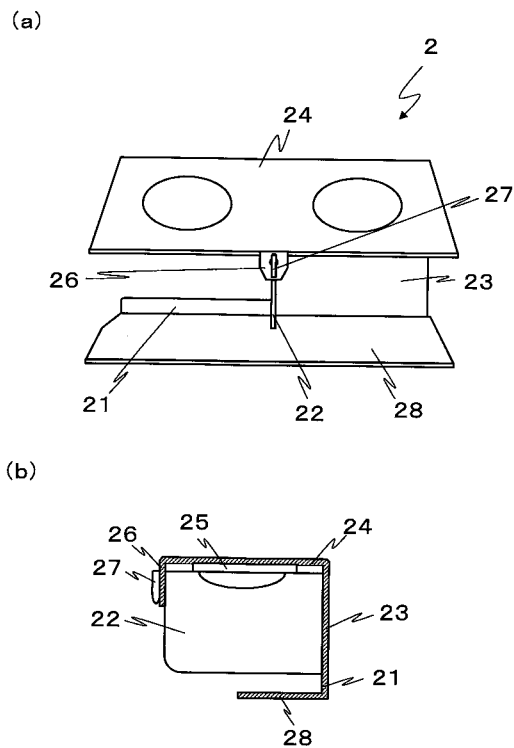
【図 1】



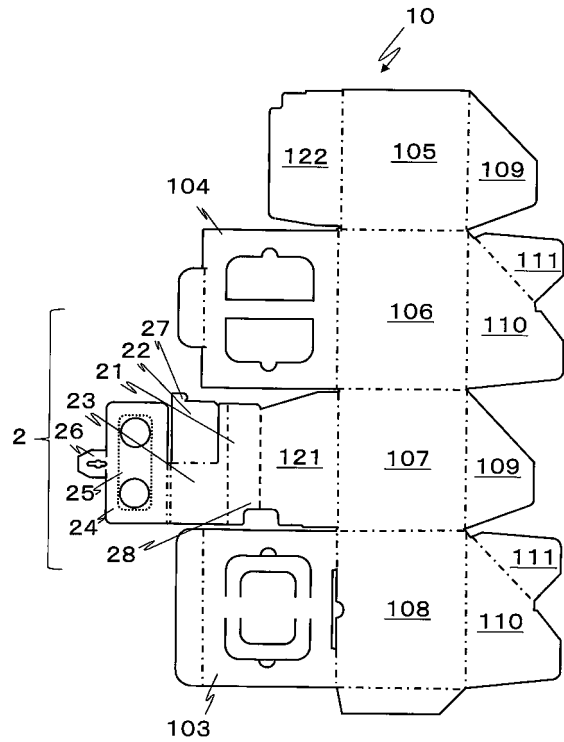
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

